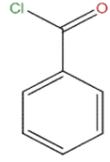


塩化ベンゾイルの概要 《2019年度第1回有害性評価小検討会資料1より抜粋》

資料2の別紙

番号	①CAS No. ②官報公示整理番号 (化審法) ③名称	① 融点(°C) ② 沸点(°C) ③ 蒸気圧 ④ 性状等 ⑤ 製造・輸入数量(※)	用途	遺伝毒性試験の概要	発がん性試験の実施状況又は実施予定	HSDB またはPubMed等の毒性情報	代謝	①GHS分類(発がん性) ②管理濃度(ppm) ③IARC発がん性区分 ④産衛ppm(mg/m ³) ⑤ACGIH ⑥法規制(労働衛生)	留意事項
4	①98-88-4 ②3-1387 ③塩化ベンゾイル 	①-1°C ②197.2°C ③ 0.625mmHg(25°C) ④発煙性の無色の液体 ⑤4,000 - <5,000 t	有機過酸化物原料・染料原料, 有機合成原料	○既存化学物質変異原性試験データ集(JETOC,2000)等にデータなし ※微生物を用いる変異原性試験ではほとんど陰性の報告であるが、加水分解の可能性が指摘され結論付けられないとしている。(ACGIH) ※マウスの皮膚塗布試験で2つの試験とも皮膚と肺の腫瘍が有意ではないが増加した。(ACGIH)	-	体細胞in vivo変異原性試験(マウス骨髄赤芽球を用いた小核試験)における陰性結果(HSDB(2005))。ヒトでは吸入暴露により咳、努力呼吸、咽頭痛などの症状(HSDB(2005))、粘膜刺激性(ACGIH(2001))に加え、気道に腐食性があると記述されている(ICSC(2002)、SITTIG(47th, 2002))。また、重篤な結果を招くおそれのある肺水腫を起こすとも記述されている(ICSC(2002)、SITTIG(47th, 2002))。ヒトの職業暴露で慢性咽頭炎、慢性副鼻腔炎、嗅覚障害などの症状が報告(ACGIH, 2001)、HSDB(2005))され、さらにマウスの反復暴露試験で著しい気道刺激性、軽度の扁桃腺腫大が認められている(ACGIH, 2001)、IUCLID(2000)) (政府GHS分類から)	-	①区分外(ACGIHによりA4と分類されている) ②- ③2A (ただし塩素化トルエンと塩化ベンゾイルの混合ばく露の評価(1999)) ④発がん性分類2B(2016) ⑤0.5ppm as STEL (URT & eye irritation) ⑥SDS対象	「代謝活性化非存在下でサルモネラTA98に対して変異原性を示すことが報告された。しかし、論文に示されたデータが、このことを裏付けるようには考えられない。他の試験では、サルモネラTA98, TA100, TA1535及びTA1538、大腸菌ならびに枯草菌(Bacillus subtilis)において、代謝活性化の有無に関わらず、突然変異誘発活性は示されなかった。水溶液中で塩化ベンゾイルは加水分解されると考えられることから、塩化ベンゾイルの変異原性試験から陰性が示されても、それだけで結論に至るとは考えられない。」(平成19年度化学物質による労働者の健康障害防止に係るリスク評価検討会報告書)

※ 一般化学物質の製造・輸入数量(2017年度実績)(経済産業省)

候補物質	管理濃度	許容濃度	ACGIH TLV basis	GHS発がん性分類	発がん性分類	FS試験実施年度	遺伝毒性試験実施結果	類縁物質のがん原性試験の状況等	その詳細	用途	製造・輸入数量(t) (CHRIPデータ)	備考
塩化ベンゾイル (CAS 98-88-4) SDS対象	—	ACGIH STEL 0.5ppm 産衛学会 —	Eye and URT irri 眼及び上部 気道刺激	分類できない (データなし)	IARC 2A (ただし塩素化トルエンと塩化ベンゾイルの混合ばく露の評価(1999)) 産衛学会 2B	H28	—	—	—	有機過酸化物質原料・染料原料, 有機合成原料	2017年度 4,000 - <5,000	H23.1の企画検討会で専門家からの意見聴取(エキスパートジャッジメント)の結果、フィージビリティテスト候補に選定(構造相関等の結果を考慮) H28.3の企画検討会でフィージビリティテスト対象物質に選定(混合ばく露の評価しか行われていないこと、生産量等を考慮)